

年間第二十五主日

2014.9.21

マタイ 20・2-16

今日のイエスさまのお話は、わたしたちにとって素直に受け入れることが最も難しい福音かもしれません。何度読み返して見ても、どんな説明を聞いても、わたしたちの心には、割り切れない思いが残ってしまうことを認めざるを得ません。

「最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中を同じ扱いにするとはい、という訴えに、わたしたちも思わず、「全くそのとおりだ」と同情をもって共感したくなります。

わたしたちの中にそのような思いがある以上、わたしたちはこの福音を、キリスト教に興味を示してくれる親しい人と一緒に読むことはできません。わたしたちが心のうちに感じている通りの反応をその人も感じるにちがいないと思うからです。カトリック信者としての自分の中に、その人に納得してもらえようような、信仰者としての受け止め方を説明する自信が持てないからです。

けれども、そのようなわたしたちにも言えることは一つだけはあるはずで。これは、イエスさまが語られたことばであるということです。そして、イエスさまが語られたことは、わたしたちが説明する必要がないということです。わたしたちの説明によって、イエスさまのことばは受け入れられるようになるものではないということです。わたしたちはイエスさまの語られたことを福音と信じて受け止めているので、イエスさまの語られたことを全てうまく説明できなくてもよいのだということです。もう一言だけ付け加えるなら、わたしたちは、今はまだ十分に説明できないでいるイエスさまの福音のおことばを、イエスさまがいつかわたしたちに分からせてくださると信じているということです。

わたしたちがこのように言ったとしても、キリスト教に興味を示してくれた信者ではないその人には、きっと、うまく通じないことでしょう。わたしたちが正直に自分の信仰を告白したとしても、そのままでは、イエスさまへの信仰を共有するまでには至っていないその人には、ますます分からないということになってしまうかもしれません。

けれども、わたしたちに質問を浴びせかける人が、真剣にキリスト教の信仰を求めている人であれば、きっと次のように訊いてくるはずで。「あなたたちは、自分でもうまく説明できないことを、イエスさまのおことばだから受け入れると言うけれども、イエスさまの言われたことなら何でも受け入れるというのは何故ですか」。このような質問に答えに窮したとき、わたしたちは次のよう

に答えれば良いと思います。「わたしたちが信じているイエスキリストは神の御子で、イエスキリストはわたしたちにこの世のことだけではなく、神の国、天の国について教えてくださいからです」。わたしたちがそのように答えることが出来たとしたら、わたしたちはそこで、ハッと気づくべきです。そうです、イエスキリストはこのお話によって、わたしたちに天の国を語ってくださるのです。このことに気づくことができたなら、わたしたちの中でもやもやしていたものが、一気に晴れてゆくように感じる事が出来るかもしれません。イエスキリストの語られる天の国は、この世のわたしたちの生き方を束縛している損得勘定の彼岸に開けているのです。「あの人たちはいい目を見ているのに、自分はいつも損ばかりしている」といった、わたしたちのうちに抑えがたく湧き起こってくる心の葛藤を超えたところに拮がっているのです。

イエスキリストの語られたことをこのように理解出来たとしても、もちろん、そのことによって、わたしたちは直ちに天の国を自分たちのものにすることが出来るわけではありません。けれども、天の国のありかを教えていただいた者たちとして、わたしたちの生き方は少しずつではあっても、変えられてゆくのではないのでしょうか。イエスキリストはそのことを望まれて、このお話をしてくださったのです。そればかりではありません。わたしたちに天の国のありかを示してくださったイエスキリストは、この世においてわたしたちが天の国を生きはじめることが出来るように、わたしたちをご自分の教会に招き入れてくださったのです。

教会に来て、わたしたちは直ちに天の国の喜びを味わうわけではないかもしれませんが。この世に生きるわたしたちの人間同士の集いである限り、教会もこの世を支配する損得勘定や競争意識の渦を完全には超越できません。けれども、教会に来て、主の祭壇の前に集まるとき、わたしたちはこの世において可能な限り天の国を味わい始めているのではないのでしょうか。わたしたちが日曜日ごとにミサに与るのは、損得勘定によってではありません。他の人に遅れを取らないためでもありません。毎年の復活祭に洗礼を受ける方々をお迎えする喜びは、単に新しいメンバーを獲得できたことを喜んでいるわけではないはずで。そしてなりよりも、わたしたちの心が落ち着いていて、ご聖体をいただくことが出来たときには、わたしたち一人ひとり自分に与えられた恵みの喜びに満たされる経験をしているはずで。わたしたちはカトリック信者としての最も基本的な信仰生活を大切にすることによって、イエスキリストが教えてくださった天の国のあり方に近づいているのです。そのことがわたしたちの中にもっともっとはつきりと受け止められ、その喜びがわたしたちのあり方を変えて行くよう祈り求めたいと思います。わたしたちの一人ひとりの日々がどのようであっても、今日も、その一人ひとりのわたしたちに十分に与えられる神さ

まの恵みに、一人ひとりのわたしたちが満たされることを、そしてそれを、ここに集う私たちが互いに喜びあえることを、願い求めたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高